

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	小松川自然地へのアダプト制度導入事業
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	江戸川区 里川小松川自然地協議会
実施期間	平成24年1月から平成25年3月31日まで
支援額 (注釈参照)	4,829,581円 人件費：1,956,100円 諸謝金：180,000円 印刷製本費：392,700円 調査委託費：420,735円 消耗品費：77,951円 通信運搬費：14,360円 設備等の整備費：1,764,000円 設備備品購入費：12,975円 その他：10,760円 <設備備品の購入> アダプトサインボード2台
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	江戸川区、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム(以下ACF)、江戸川・生活者ネットワーク、下平井水辺の楽校、中土手に自然を戻す市民の会にて里川小松川自然地協議会を結成し、プログラム企画運営、企業誘致、広報、国土交通省との協議等、それぞれの特性を活かした役割を担った。協議会外では、企業8社(延べ11回)、江戸川区・江東区の近隣小学校2校(延べ7回)が活動に参加した。このほか小松川平井地区連合町会に参加を求めたが、活動の価値を評価いただけたものの、2012年度の組織参加には至らなかった。連合町会、近隣小学校7には広報協力をいただいた。植生管理の専門家NPO法人生態工房に委託し植生モニタリングを行った。
事業概要	行政が管理する河川という公共財にて、市民や企業と定期的に美化活動やセイタカアワダチソウなど要注意外来種の除草、生物調査など自然地の管理に係るアダプト制度を導入することを目指し、市民参加のプログラムやモニタリングに加え、サインボード設置などの普及啓発活動を行った。
事業内容	<p>1. 里川プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年4月～2013年2月に、地域向けに10回、学校向けに5回、企業向けに11回、2時間程度のプログラムを実施し、計2,318人の参加を得た。 ・内容は、要注意外来種セイタカアワダチソウの除草、冬季ヨシ刈り、市民参加のモニタリング「バッタ・キリギリス調べ」、自然に親しむ活動を含み、都市河川の自然の魅力に触れながら、保全管理への関心を高めることを目指した。 ・地域向けプログラムについては、春・秋に募集ちらし、ポスターを区拠点、学校、町会、看板を通じて配布・貼付、区報に募集記事を掲載し、地域住民の参加を募った。 ・地域向け・学校向けプログラムに当たっては、ACFスタッフと講師(ACF、下平井水辺の楽校)が企画し、他の構成団体メンバーが当日運営に参加し、スタッフマニュアルを活用してプログラム運営・安全・生物に関する知見、スキルを共有した。 ・企業向けプログラムに当たっては、ACFが相手先企業と協働して企画運営を行った。 ・プログラムの成果をACFホームページに掲載し、他団体が適宜リンクなどして広く紹介した。 <p>2. モニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人生態工房に委託し、セイタカアワダチソウが群生する草地における植生調査・昆虫調査、及びヨシ原におけるヨシ調査を実施した。

- ・管理方法の異なるモニタリング地（抜き取り・刈り取り・放置）の成果を比較することにより、セイタカアワダチソウ除草や冬季ヨシ刈りの効果を評価し、適正かつ持続可能な管理方法を検討した。
- ・生態工房と ACF スタッフ・講師が企画し、これに他構成団体メンバーが当日加わり実施した。生態工房が調査結果を取りまとめ、管理方法への提言を含む報告書を作成した。
- ・2モニタリング地（200㎡）でセイタカアワダチソウを完全に除去し、企業・学校による除草地を含め計約7,700㎡を除草、在来種を主とする草地創出を目指した。
- ・河川敷に棲む生物への関心・理解を深めるため、市民参加モニタリング「バッタ・キリギリス調べ」を企画し、地域・学校・企業向けプログラムの中で実施、計519人の参加を得た。
- ・調査結果を ACF ホームページに掲載し、他団体が適宜リンクなどして広く紹介した。

3. 普及啓発資料の作成

- ・参加者や一般市民に対し、都市河川における里川保全活動への認知・関心を喚起するため、啓発パンフレット「生き物あふれる川を未来につなごう」を6,000部作成し、参加者、及び学校、区内・都内拠点で配布した。
- ・調査体験を通して都市河川の生物への関心を高めるため、市民参加モニタリング「バッタ・キリギリス調べ」の図鑑付きマニュアルを5,000部作成し、プログラムの中で活用すると共に、学校や区拠点で配布した。

4. サインボードの設置

- ・国土交通省荒川下流河川事務所と協議を重ね、2012年3月に江戸川区占用地に、2013年3月に非占用地に、サインボード計2台を作成し設置した。
- ・目的は、①地域住民・参加者への広報啓発（当地への関心・親しみの醸成、活動の主旨・内容理解、備付けポケット内にちらしを入れ参加者を募集）、②運営主体・行政との連携を示すことによる信頼性の向上、③企業メッセージ掲示による資金調達の可能性の追求、であった。
- ・③看板への企業メッセージ掲示については、屋外広告物条例に反する（企業からの資金提供を伴う看板の設置は「広告」に該当し、東京都野外広告物条例第6条第7号において、河川で広告物を表示し、又は掲出物件を設置してはならないと定めている。）点から、国土交通省より許可が得られなかった。しかしながら、当協議会に加入することにより構成団体として企業名を掲載できることとなった。
- ・一方、参加企業の1社より、2013年度地域向けプログラムへの寄付が決定し、看板に寄らない民間資金調達の可能性が示された。
- ・荒川下流河川事務所との協議に当たっては、ACF、江戸川・生活者ネットワークが中心となり、要望・質問などを取りまとめ推進した。

5. アダプト制度の導入

- ・当プロジェクトの目的「人々が自然に親しみ楽しみながら自然環境が守られていく里川」のしくみ構築のため、アダプト制度の導入が有効と考え、国土交通省に導入を求めた。協議を重ねた結果、2013年度の当地へのアダプト制度「荒川下流自然地管理アダプト制度（小松川自然地版）」の導入が決定した。
- ・荒川下流河川事務所は、当初、足立区におけるアダプト導入を先行し、小松川自然地でのアダプト導入を進める計画になかった。協議会は、足立区当該地よりも同地でのアダプト導入を先行させる有効性、当プロジェクトにとっての必要性（信頼性の向上、広報協力の必要性）を訴え、アダプト導入を要望した。

得られた成果 及び自己評価	<p>1. 成果</p> <p>①都市河川の自然への関心・保全意識の醸成 参加目標数 1,350 人に対し、2,318 人を達成した。除草・調査など保全管理活動に参加しながら、都市河川の自然の魅力を再発見した。2 台の看板は、参加者・住民が当地・当活動への親しみを増す役割を果たしている。</p> <p>②日本の原風景の回復 市民・企業の手で約 7,700 m²に亘るセイタカアワダチソウを除草し、在来種を主とする草地を創出した。</p> <p>③継続性の担保 延べ 11 回の企業参加を得た。2013 年度地域プログラムへの寄付 1 件を決定し、寄付による資金調達の可能性を見いだした。看板への企業メッセージ掲示による民間資金活用は成らなかったが、アダプト制度導入、アダプト看板設置により、信頼性を向上し、市民・民間参加の自然管理の基礎を築いた。</p> <p>2. 波及効果</p> <p>①企業メリットを追求した提案、②対象に即した魅力あるプログラム、③選択的な団体構成による協議体、④既存の枠組み打破へのチャレンジが波及可能。</p> <p>3. 今後の展望</p> <p>①多様な主体の参加・協力・加入、②主体的活動とゆるやかな連携を重視した運営、③行政への更なる提案、④更なる資金調達のしくみ創りを進める。</p>	
	評価ラ ンク	<p><input type="checkbox"/> S : 特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A : 優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B : 一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C : 限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D : 成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が 50 万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

取得した機械・器具

事業の実施内容及び実績に関する報告書